

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：グリーンポート桜木町保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：上原 礼子	定員（利用人数）：80（80名） 名
所在地：〒220-0021 神奈川県横浜市西区桜木町7-42	
TEL：045(290)1008	
ホームページ：https://www.chitosek-recruit.com	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2014年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 ちとせ交友会	
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員： 10名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士：23名 栄養士：3名
	看護師：1名
施設・設備の概要	（居室数）保育室：6室
	（設備等）トイレ：3ヶ所、調理室：1(22.76㎡) 事務室：1（12.51㎡）、園庭：有（49.14㎡） ウッドデッキ：48.65㎡

③理念・基本方針

【法人理念】

Homeー ここに集い ここに育み そして ここから はばたく
ちとせ交友会は かかわる すべての人にとって 心安らぐ場所 Homeでありたい

グリーンポート桜木町保育園は、子どもたちが日中過ごす～Home～です。すべての子ども、そして保護者の心安らぐ憩いのHomeとなれますよう、愛情いっぱい、笑顔いっぱいの保育園運営を目指しています。

【目指す子供の姿】

- ・生き生きとし、元気に遊べる子
- ・友達としっかり関わり、育ちあう子
- ・自分で考え、行動する子

行き届いた安全な環境と、家庭的な温かい雰囲気の中で、ひとりひとり子どもを大切に、健康で・明るく・思いやりのある・自律性を持った子どもの育成を目指しています。

④施設・事業所の特徴的な取組

☆子どもの認知発達を理解し、生活と遊びを通じて自律的な発達を支援していく保育カリキュラム
 ☆ピアジェの構成論に基づいた遊びと活動の継続的な実践(ビックブック、廃材遊び、集団遊び、カードゲーム、ボードゲーム他)
 ☆ベビーサインの導入(主に0.1歳児)
 ☆延長保育、土曜保育の実施
 ☆一時保育事業、年度限定(1歳児)保育事業の実施
 ☆特別講師によるリトミック、英語レッスンの実施
 ☆実習生、ボランティアの受け入れ
 ☆自園調理、栄養士による手作り給食、おやつを提供
 ☆交流保育、実践発表会など姉妹園間の連携、職員間交流
 ☆職種、役職、キャリア等に応じた、充実した法人研修の実施
 ☆地域行事(さくらフェスタ、西区民まつり等)への参加
 ☆近隣子育て支援施設との合同研修による保育の質向上の取り組み及び横浜市西区内施設との連携
 ☆八洲学園高校との交流、介護老人施設訪問を通じた世代間交流

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	(契約日) 令和3年8月23日 ～ 令和4年4月18日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	1回(2017年度)

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子どもを尊重し自主性を育む保育

法人作成の「行動の規範集」には保育理念や保育目標等に、子どもを尊重した保育の実施が明記され、職員は折に触れて見返し、日頃の行動の振り返りと再確認を行っています。今年度、園長が職員へ掲げている目標は「子どもたちへの自主性を育てる声掛け」です。これまでの保育の「あたりまえ」を見直し、子どもの自主性を育てる声かけに取り組んでいます。子どもの発信を大切に、子ども自身の自己肯定感や他者信頼感を育むよう努めています。非常勤職員も園内研修に参加して、言葉かけ等の配慮や理解を深めています。職員は「あたりまえのことを見直した」保育の取組事例等を、ワークショップで学んで実践しています。

2)子どもの心身の健康の保持・増進

毎日、保護者に健康チェック表を記入してもらい体調や受診の有無などの把握に努めています。登園可能な健康状態の目安を文書にして掲示し、気になる症状が見受けられた際には、確認できる仕組みとなっています。保育士が「検診簿」に子どものケガや体調について伝達事項を記載し、それをを用いて他の職員に引き継ぐことで、降園時に保護者に正確な伝達ができるようにしています。午後看護師が巡回しています。職員は、昼礼にてクラスの子どもの体調などの様子を伝え、職員全員が周知しています。健康診断の

結果も会議で周知しています。乳幼児突然死症候群予防のため、乳児の睡眠時は5分おきに目視とルクミー（呼吸確認器、0歳児に導入）で確認しています。

3) 個々の子どもの生活のリズムや発達過程を把握した乳児保育

年度初めは乳児が安心して入室できるよう、朝の受け入れ時間帯に担任保育士を必ず配置しています。食事、排せつ、睡眠について、子ども一人ひとりの生活リズムや発達過程を詳細に把握し、適切な援助ができるよう場面に応じた担当制をとっています。子ども自身が要求を発信したり、保育士が要求を受け止めたりをスムーズに行うため、表情やしぐさを大切にしたいベビーサインを取り入れています。

◇改善を求められる点

1) コミュニケーションを図り若手職員の育成

現在、園では経験豊かな職員が産休・育休に入り、若手職員や当園での経験の浅い職員が働く状況となっています。園長などの役割の明確化と職員間のコミュニケーションが大切な環境です。専門技能等を学び「知っていること」を経験等を加えて「できる」ようにすることと、職員間の話し合いに時間を設け、園内研修やOJTにより経験を支援することが求められます。役割を明確にし、目標管理シートによる面談での丁寧な指導・助言が期待されます。

2) 職員参画のもとでの事業計画作成

事業計画は職員の参画や、意見集約・反映の仕組みが定められていることが求められていますが、現状は職員の振り返り等の話し合いが実施されておらず、職員の計画への参画は出来ていません。また、現状は課題事項や重点取組に具体的取組内容や数値目標等の設定がありません。事業計画作成に職員の参画が期待されると共に、方針発表会等を開催し、園長から直接職員に計画内容が周知されることが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

自己評価に取り組む中で、施設としてやるべきことが分かり、保育・運営に関して共通認識を持つことが出来ました。また、職種、雇用形態に関係なく情報交換が行えたことで、職員間のチームワークの向上を図る機会にもなりました。
周知はしているけれど保護者に認識されていない事柄が多くあることが今回のアンケートで見えてきました。更なる工夫と発信により、保育理念やサービス・設備等に関する取り組みの浸透を図っていきたいです。新型コロナウイルス対策に留意しながらの生活が続き、活動への規制や縮小を余儀なくされることも多くありますが、子どもたちの最善の利益と人権の尊重を重視した保育を実施し、自律した子どもの育成に努めていきたいです。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり